

# 高齢者のオンライン言語行動： 日本語日記ブログにおける役割語

西村 由起子

## 要 旨

高齢化が急速に進行する現代日本社会において多数の高齢者がブログを執筆し、自己を語っている。近年成果をあげている役割語研究だが、ブログに関しては分析が行われていない。本稿は、役割語がフィクションのみならず日記ブログ分析にも有用であることを示し、ブログにおける高齢者の言語行動を役割語の視点から若者世代との対比において解明することを目的とする。調査の結果、役割語分析の1つの鍵となる一人称代名詞に関して高齢ブロガーは、文字種も含めより多くの種類の一人称代名詞を使用していることが判明した。役割語は日記ブログにおいて、多様なブロガーのアイデンティティ構築と解釈を可能にする言語資源であることが明らかにされた。本稿は役割語研究をブログ分析に拡大することで役割語研究に異なる光を当て、高齢化社会を視野に置いた日本語におけるニューメディア社会言語学研究の一端をなすものである。

## I. はじめに

金水（2003）により提唱された役割語は、主に小説、マンガ、アニメ、映画等のポピュラーカルチャーを通じ普及している様々な言語資料を対象に研究が進められ、金水（編）（2007, 2011, 2016）においてその発展成果が報告されている。これまでの役割語研究ではブログに関しては可能性は言及されていたものの、断片的記述にとどまっていた。本稿では、特に個人が執筆する日記ジャンルのブログにおいてどのように役割語が出現するかを明らかにし、ブログ著者が書き手自身やブログ内登場人物を提示・表現する際に、言語資源としての役割語がこの提示にどのように貢献しているかを探ることを第1の目的とする。

また『平成28年版高齢社会白書』に記されているように、今日の日本社会では急速に高齢化が進行しつつあり、2060年には、65歳以上の高齢者が日本の総人口の約40%を占めると予想されている（内閣府 2016）。同時にインターネット利用は社会の各世代に普及し、高齢者による利用率の増加はめざましく「60代と70代では平成25年末よりも利用率が増加している。」（『平成27年版情報通信白書』総務省 2015）。長尾（2000）の報告にあるように、意志とネットワーク環境を持つ者は情報発信が可能となり、高齢者の活発なインターネット利用がうかがえる。日本人高齢者の言語行動についてはMatsumoto（2011）の行った高齢女性による会話の研究はあるが、若者の言語行動研究に比べれば遙かに少なく、社会言語学においてはCoupland（2004：83）が言うように、高齢者に焦点を当てることは喫緊の課題である。Matsumoto（2011）の行った対面言語行動の分析をコンピュータコミュニケーション

ションに拡張し、高齢者がどのように自己や身辺を語り、自己実現の一部となっているかブログを通して垣間見ることが高齢化社会の理解にもつながり意義深い。本稿の第2の目的は、この観点からブログにおける高齢者の言語行動を若者との対比において明らかにすることである。

本稿の構成は以下である。次節では役割語の定義、種類を述べ、役割語の先行研究では小説などのフィクションにみられる言語現象が扱われてきたことを示す。3節では、本稿であつかうブログの性格を説明する。特に日記ジャンルのブログを扱うため、日記の伝統を踏まえ、今日電子媒体で書かれるブログが、印刷媒体で読者に提供されるフィクションとの相違点を明らかにする。4節では、ブログデータの収集・分析方法を記す。役割語の特徴が多く出現するのは、1人称代名詞と文末表現である。前者は、日記ブログが書き手自身について書かれることが多く、“blogs are generally written in the first person” (Rettberg 2014: 34) であるため、1人称代名詞について、漢字、ひらがな、カタカナを使い分ける日本語文字表記の多様性から、1人称代名詞に用いられる文字種も合わせて量的に調査する。後者には終助詞と助動詞が含まれるが、本稿では紙数の制約のため、割愛する。5節では、4節の結果をうけ、異なる年代、性別の書き手によるブログテキストから具体的に役割語の出現を示す。そこでは1人称代名詞における文字種の選択がブロガー・登場人物の描写とどのように関連があるか、読者にとって役割語の使用が描かれている登場人物理解にどのような効果があるか、書き手はどのようなモチベーションから役割語を使用すると考えられるのか、等を探る。6節では、役割語という分析枠組みを用い、社会言語学では若年層と比較して研究の蓄積の少ない高齢者が、オンライン環境を活用しどのように自己表現しているか、役割語使用の背後にある価値観や考え方についても考察する。終章では本稿を締めくくり、今後の研究方向も探る。本稿はブログ分析を役割語研究に追加することで役割語研究の幅を広げ、高齢化社会を視野に置いた日本語におけるニューメディア社会言語学研究の一端をなすものである。

## II. 役割語とは

金水 (2003) は、役割語を以下ように定義している。

ある特定の言葉づかい (語彙・語法・言い回し・イントネーション等) を聞くと特定の人物像 (年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等) を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができるとき、その言葉づかいを「役割語」と呼ぶ。(金水 2003: 205)

たとえば、

- (1) そうじゃ、わしが知っておる (金水 2003: v)

を聞くと、この表現を言いそうな人物として、老人、老博士を思い浮かべることができる。このよう

にある特定のキャラクタと結びついた特徴ある言葉づかいを役割語という。「このような表現が実際に使われるか」、よりも、「このような表現からある特定の人物を思い浮かべる事が出来る」という点が重要である。この例のような表現が日本語話者にとって共有出来るということは、テレビ、アニメ、マンガ、ドラマ、映画などのポピュラーカルチャーが多分に寄与している、とし、このような言語ステレオタイプを日本語話者は多かれ少なかれ、ポピュラーカルチャーとの接触度合いに応じて、社会の中で共有している、と役割語研究者は主張する。

役割語の分類として、金水（編）（2014：viii-xiii）では大きい分類から細分化しており、「性差」、「年齢・世代」、「職業・階層」、「地域」、「時代」、「人間以外」の大分類を挙げ、〈お嬢様ことば〉、〈幼児語〉、〈老人語〉、〈軍隊語〉などが下位区分<sup>(1)</sup>に含まれている。

役割語はこれまでどのように研究されてきたのか。金水（編）（2007, 2011, 2016）によるこれら3点の論文集において、紹介された大学卒業論文の研究8編も含めると50編近くに上り、その拡大と深化が伺える。扱われた役割語の種類も多岐にわたり、〈お嬢様言葉〉〈幼児語〉〈アルヨ言葉〉〈軍隊語〉等がある。1つの研究論文で複数種の第一次言語資料を扱っている場合もあるが、翻訳書も含め小説を分析対象としている研究が最も多く、次にマンガ、教科書、映像メディアのテロップ、TVドラマ、ニュースやインタビュー記事、国内・海外映画、歌謡曲歌詞等、多岐にわたる。そのような言語資料を対象に、日本語は当然としても、日本語以外で、黒人英語、タイ語、韓国語、ドイツ語においても役割語研究が行われている。分析対象の一次資料は印刷・映像メディアが大多数をしめており、インターネットからの言語資料は断片的な採取にとどまっている。1件はタイ語における人称代名詞に関する研究で、電子掲示板に投稿された例文が1例示されている（伊藤 2016：112）。岡崎・南（2011：208）は、成人間またはペットに対して使用される〈幼児語〉を〈甘え語〉とし、その使用例を女性タレントのブログから挙げている。2チャンネル掲示板からの例は、定延（2011：23）が新しい品詞の出現として挙げ、山口（2011：39）は、ネットにおける他人キャラの導入例として使用している。役割語研究を英語圏で紹介している Teshigawara & Kinsui（2011：39）は役割語研究にとって“weblogs are goldmines”と述べているのにも拘わらず、ブログにおける役割語を正面から分析にした研究は、役割語を Bakhtin（1981）の述べるスタイルイゼイションの観点から分析を行った Nishimura（2017）以外は、これまでの所みられない。ここに本稿でブログの書き手の人物描写や読み手の解釈に焦点をあてたブログ分析を扱う理由がある。

### Ⅲ. ブログとは

ブログとは “frequently updated websites where content (text, pictures, sound files, etc.) is posted on a regular basis and displayed in reverse chronological order” (Schmidt 2007) と定義される。ブログの始まりは、自分が気になったニュースやサイトなどの URL を寸評つきで紹介した英語のウェブサイトとされるが、その後、ブログ用のツールが出現し本格的な拡大が始まった (Wikipedia 2017)。

『ブログの実態に関する調査研究』(総務省 2009) によると、テーマを「日記」とするブログが最も多く 23.5% を占めている。その後には、「エンターテインメント」(19.9%)、「趣味」(12.3%) が続く。

日記には、平安時代より日本では長い伝統がある。著名な文人による日記でなくても、キーン(1985: 5)は日記内の「日記作者の声」に惹かれ、日記から日本人を知り、日本人について語っている。インターネット時代の市井の人々による日記にも書き手の声の流れていると考えられ、キーンが読む事の出来た日記とは比較出来ないほど大量の日記が今日インターネット上にはあり、このことが、もはや若者だけのものではないインターネット上の日記ブログを検討する理由にもなっている。

役割語の概念をブログ分析に適用するにあたり、役割語によるアプローチがフィクションの分析で有効であることから、日記ブログと小説などのフィクションとはどのように異なるのかを考える必要がある。その二者の違いは、作品の長さ、プロットや構成など、大局的な面では違いはあるが、微視的に見た場合、書き手が自分の書く文書を「ブログ」として読者に提示するか「小説」として提示するか、に依存する面が大きい、と筆者は考える。筆者の調査したケータイ小説には、ブログから生まれた作品も見られ(西村 2012)、書き言葉、インターネット上のことばを分析した調査では、電子媒体のブログと紙媒体の小説の間には品詞分布などに見られる言語特徴には大差ないことが明らかにされている(Nishimura 2013)。

日記の中のフィクション性について、キーン(1985)は「いわゆる本当の日記にも、作り事(フィクション)が含まれていないとは限らない」(10)、として、以下の様に述べている。

文才のある人には、その日の出来事を友達に語る時さえ、真実を曲げてでも面白く語りたい、という欲望をおさえるのはむずかしい。…ところが現実の人生は、文人が希望するほど旨味をもって動くとはかぎらない。だから彼は残念ながら実際には起こらなかつた事件を本当に起こったかのように書くことがありうるのだ。しかしそうした記述は真実性には欠けるとしても、それが作者の想像力から発し、彼自身の言葉によって表現されている以上、彼にとってはやはり真実の声だと言えるかもしれない。…そして嘘も十分彼の日常生活の大事な一部となりうるのである。(キーン 1985: 10-11)

ブロガーの文才の有無は別としても、キーンの述べていることは、「人々の肉声」(キーン 1985: 14)が記されているという点で、ブログ日記についても該当すると言えよう。

#### IV. ブログデータの収集・分析方法

本稿において分析対象とするブログデータは、2004年に設立され、140万人以上のブロガーが参加している日本ブログ村<<http://www.blogmura.com/>>より収集している。日本ブログ村村長によると、時間の経過とともに高齢者の利用割合も増加している(筆者によるメール問合わせ(2015)<sup>(2)</sup>)。ここにはブロガー個人が、たとえばYahoo BlogやHatena Blogなどにある自分のブログをこのポータルサイトにリンクすることができる。このポータルサイトは、11の主要カテゴリから成り、さらに120以上のサブカテゴリに分かれ、興味、関心を共有する他のブログを見出す機会や、他のブロガーとの交流スペースを提供している。「日記」は11の主要カテゴリの1つで、書き手の年齢、性別、ブログ

トピック等に基づいて更に細分化されている。

本稿でこのサイトを選んだのは、書き手の年齢、性別、に加え、利用者の投票による人気ランキングを有するサブカテゴリシステムのおかげで、男女別で異なる世代の著者によるブログを体系的に収集することが可能となるからである。「日記」カテゴリの中でも、おおむね60歳以上の「シニア男性」と「シニア女性」の日記サブカテゴリから、「シニア男性」に参加した173人の男性のうち、人気投票で50位までのブログと、「シニア女性」に参加した233人プロガーうち、やはりランキングで50位までのブログを対象とした。若年層のブログでは、「その他の日記」サブカテゴリのうち、20代男性、30代男性の合計397人から、上位25サイトずつ計50サイトのブログを対象とし、女性も同様に、20代女性、30代女性のサブカテゴリ合計569サイトのうち20代・30代で上位25サイトずつ、計50のブログサイトをそれぞれ対象とした。4つのブログ執筆者グループは各50人のプロガーから成り、合計200サイトのブログを分析対象とした。この数の設定は、コーパスサイズの管理上の理由による。

それぞれの対象ブログから、2012年春に20日分のブログ記事が収集された。記事の長さは1日あたり数語から数百語にも及び、プロガーにより大きく異なっていた。ブログ更新の頻度も個人差があり、頻度の低いプロガーの場合、2011年にさかのぼることも起こった。ブログ開始からそれほど時間を経っていないため、ブログ記事が20日を下回る場合は、ランキングでその次にランクされたブログを採用した。ブログテキスト収集基準として文字数ではなく投稿日数を設定したが、これは時間の幅をもって、同一プロガーの「声」を聴く機会を多く取りたい、との理由による。プロガープロフィールやブログ内容から判断される限り、活動の場所は様々で、話題も多岐にわたり家庭生活、家族、趣味、旅行などについてであった。本稿におけるブログ分析では、書き手によるブログテキストのみに焦点を当て、ブログ読者によるコメントやフィードバックは含まない。広告や日本ブログ村からのメッセージ文も、プロガーによるテキストではないため、除外している。写真やそのキャプションは、関連がある際には言及はするが、基本的に非言語要素は分析には含めていない。

分析方法として、日記ブログは書き手自身について書かれることが多いため、調査項目は日本語における多様な一人称代名詞<sup>(3)</sup>のうちどのような語彙が用いられているか、である。その際、漢字、ひらがな、カタカナを使い分ける日本語文字表記の多様性から、一人称代名詞に用いられる文字種も合わせて量的に調査する。

これらの計量分析のために、日本語コーパスツールである「MeCab」(Version 0.97, 2008)、ユーザーインターフェースの「茶まめ」(Version1.71, 2009)、及び形態素解析システム用の日本語辞書Unidic (Version 1.3.12, 2009)を使用した。MeCabは京都大学情報学研究所とNTTコミュニケーション科学基礎研究所 共同研究ユニットプロジェクトを通じて開発されたオープンソース 形態素解析エンジンで、Unidic・茶まめは国立国語研究所により開発されたものである。本稿では性別・世代の違いを明らかにするために、1人称代名詞を使用したプロガー数を示し、1人称代名詞については文字種も合わせて提示する。

## V. 結果

下の表1では性別年代別ブログ利用者がどの一人称代名詞をどの文字を使って使用したか、が示されている。

表1：文字種別一人称代名詞の使用者数\*

	一人称代名詞	文字種	シニア女性 (N=50)	シニア男性 (N=50)	ジュニア女性 (N=50)	ジュニア男性 (N=50)
1	私	漢字	42	42	45	22
2	わたし	ひらがな	14	4	4	5
3	ワタシ	カタカナ	3	2	1	1
4	わたくし	ひらがな	4	1	1	1
5	ワタクシ	カタカナ	1			1
6	あたし	ひらがな	3	1	3	3
7	私たち**	ひらがな	1			
8	わし	ひらがな		4		1
9	僕	漢字	6	3	5	22
10	ボク	カタカナ	4	2		4
11	ぼく	ひらがな	3		1	3
12	俺	漢字	5	9	3	22
13	オレ	カタカナ	2	3	2	11
14	おれ	ひらがな	2	1		3
15	おら	ひらがな	2	1		
16	オイラ	カタカナ		1		
17	おいら	ひらがな				3
18	それがし	ひらがな		1		
19	我々	漢字	3	9	1	6
20	われわれ	ひらがな		5		
21	我	漢字	6	6		4
22	われ	ひらがな	1	4		
23	吾輩	漢字		2	3	
24	我輩	漢字		1		

\*グレーのセルは他者を引用している場合である。\*\*「私たち」については、第6節において論じる。

表1から、柴田・山田(編)(2002)の示すとおり、「私」がどのグループでもほぼまんべんなく使用されていることが分かる。1から8までの「わたし」系列, 9, 10, 11の「僕」系列, 12から17の「俺」系列はそれぞれの語彙の持つ言語ステレオタイプと一致した使用分布となっていると言える。また、全体にわたりシニアブロガーの方が、若手のブロガーより使用している1人称代名詞の種類が多く、人生経験の差、といえるかも知れない。シニア男性が「僕」より「俺」を使用する傾向があるのは、ブログがインフォーマルなコミュニケーションであることに加え、「しもべ」という漢字の原義の連想から、男性性や強さを暗に伝えることのできる1人称代名詞を選んでいる、と考えることも可能であろう。さらに、漢字「私」では読み方が特定できないため、読み方を指定したい場合、仮名を用いるが、他の語彙に関しても、ひらがな、カタカナでは、その文字種が引き起こす連想が異なっており、「女手」と呼ばれるひらがなは、漢字、カタカナに比べて男性には避けられる傾向があるといえる。役割語が言語ステレオタイプであるとする、Smith & Schmidt (1996)も分析しているが、ひらがながその成立から女性的なイメージや、平易であることから子どもでも読める、との点で幼さを暗示し、一方、カタカナが西洋からの外来語表記に使用されてきたことから近代的なイメージを与えうるし、漢字はフォーマルであることや学識も連想させる。作家が作品中の、「めがね」をかけた人物描写の際、「眼鏡」、「めがね」、「メガネ」のどれを選ぶかにより読み手の印象が異なってくることを述べた作家がいた。対面コミュニケーションと異なり、空間を共有しないブログでは書き手の利用できる言語資源に限られているため、自分自身やブログの登場人物を描く際、文字種から想起されるステレオタイプの連想も活用している可能性が高い。役割語研究において、文字種が議論されたのは、「表記上の工夫」として〈幼児語〉の文脈だけであったが(岡崎・南 2011: 205-206)、語彙の選択とは異なる領域で、少なくとも書き言葉では、ステレオタイプの解釈の一部をなしている、という点で、注意が払われても良い部分ではないかと考える。

## VI. ブログにみられる役割語

本節では異なる年代、性別の書き手によるブログテキストから具体的に役割語の出現をみるが、その前段階として、ブログというプラットフォームでコミュニケーションがどのように行われているかを考えておく必要がある。山口(2007: 22)はフィクションにおける2つのコミュニケーションチャンネルという視点を提示した。山口(2007: 22)によると、この二つの伝達回路とは、微視的伝達と巨視的伝達と呼ばれ、前者は「物語の世界内で登場人物同士がやり取りをする伝達」を指し、後者は「作家から観客へ向けられたコミュニケーション」のことである。この考え方はブログを考える上にも有効で、ブログに応用することは、ブロガーと読者、ブログ内登場人物同士の関わりを読み解く上で適切な枠組みを提供することとなる。以下では、これらの2つのレベルのコミュニケーションが役割語を用いてどのように行われているか、実際のブログテキストの分析により探っていく。

具体的には、高齢者グループからの役割語の使用3例、若手グループから2例をこのセクションで検討する。ここでは、1人称代名詞、文末形、文字種の選択だけでなく、他の言語形式にどのような役割語の特徴がみられ、それらがどのようにブロガー自身や登場人物の描写・提示に寄与するか、読

者にとって役割語の使用がブロガーや描かれている人物理解にどのような効果があるか、書き手は読者にどのように理解してもらいたいために役割語を使用するのか、等を質的に分析する。

### VI.1. <幼児語>

まず、自分の犬に<幼児語>をしゃべらせている、シニア女性のブログからの例を示す。児童言語発達研究において、例えば、大久保（1984）、伊藤（1990）らは日本の幼児がどのように日本語を取得するかを記録してきた。高橋（1975：198）は音韻発達に関して、3歳児では、「足」を「アチ」と置き換える音声置換がよく観察される現象であることを報告している。岡崎・南（2011）はこのような音韻置換などの特徴がどのようにマンガに取り入れられているか調査し、「し」から「ち」への置換が、調査対象の手塚治虫作品においてすべての音声置換の中で最も頻繁にみられると述べている（205）。同様に、ブログにおいても、子音置換による<幼児語>がシニア女性のブログで見出され、ブロガーの犬が人間の声を持つように描写されている。この例では、「し」が「ち」（例(4)では下線と太字）に置き換えられ、典型的な<幼児語>を示している。

- (4) わち、マックンのお姉ちゃんのやぐちゃんよ～♪  
 ママやマックンに守られて13才になりちたあ～♪  
 空さん刈(´・ω´) (´\_`)がト♪。やぐうれちいな～♪

この音声置換以外にも、助詞の省略もみられる。さらに、このブログのタイトルページでは、ブロガーが犬の声を使って犬に自己紹介をさせている。

- (5) 僕マックン！！  
 僕も時々おしゃべりするよ～☺  
 よろしくね～。  
 …  
 シニアのおかーたんの子供になったんだ＼(^o^)/  
 おかーたんに、たくさん元気あげるんだ！！  
 たくさん幸せあげるんだ！！

例(4)と(5)では、やぐちゃんとマックンがともにブロガーの犬であり、ブロガーはマックンをストーリーテラーとしても主人公としても提示している。同時にこの両者は、ブロガーの子供としても提示されている。標準的な「おかあさん」ではなく、マックンには<幼児語>として舌足らずの印象を与える「おかーたん」と言わせているからである。ここでの微視的コミュニケーションでは、ブロガーは、ここでは言及されるだけでセリフはないが、二匹ではなく二人の「子どもたち」の母親である。巨視的コミュニケーションでは、登場人物が<幼児語>である犬の声を使うことで読者にコミュニケーシ



ョンを行っているが、その声を言わせているのはブロガーである。母親としてのキャラクターとブログの作成者としてキャラクターを操作しているが、〈幼児語〉の使用は単に母子関係だけを伝えたいため以上の意味を持つ可能性が高い。

これを見るために、このブログの中の〈幼児語〉の特徴は、歯茎摩擦音「し」に代わる歯茎破裂音「ち」の使用であることに注目する。3歳までの幼児では、日本語音韻体系を完全に習得していない場合があり、この置換は、発音が難しい音を避けるための戦略としてかなり一般的である（伊藤1990: 19-20）。したがって、年上の話者なら「し」が期待されるところに「ち」を使うことは、子供のような、未熟で無邪気な印象を与えることができる。このことは、日本文化における「かわいい」という概念に深く関わっている可能性があり、ブロガーのこの〈幼児語〉の使用は、自分の犬を「かわいい」と表現したいという願望によって動機づけられていると考えるのが自然である。

日本の「かわいい」という概念と現象は、Kinsella (1995)、四方田 (2006) をはじめとして多数の内外の研究者により調査され、Kinsella (1995) は “Kawaii or ‘cute’ essentially means childlike; it celebrates sweet, adorable, innocent, pure, simple, genuine, gentle, vulnerable, weak, and inexperienced social behavior and physical appearance (220).” と述べている。ブロガーは、〈幼児語〉を活用して、自分の犬を「かわいい」幼い子供として特徴づけている。ブロガーと犬とを母子関係に置くことで、犬は愛情のターゲットと見なすことができ、「かわいい」というイメージも更に強められる。このことは彼女のブログページにアップロードされた写真からも見て取れる。写真には、「かわいい」カラフルな服とリボンに飾られた犬の写真がある。

## VI. 2. 〈奥様ことば〉

次の例もシニア女性からである。

(6) わたくしファンファン村の愛猫のミーミでございます。

つい十日ばかり前に三度めのお産をしたばかりでございます

本当はもっと美人なのございますけど毎日の授乳に追われてこんなに首が長〜く伸びてしまひまして。

中略

お終いは露天風呂から見た海ございます。

これからは眼下に真っ青な海が広がるございます。

快晴の日は佐田岬の風力発電機が20本きっちり見えるございます。

まあ、田舎ですがのどかなファンファン村でございますが今後とも宜しくございます。

本日は愛猫のミーミがご案内させていただきました☺

例(6)で特徴的なのは、「ございます」の多用である。マンガ『ドラえもん』主人公の友人スネオの母が用いることで流布し、裕福な「奥様」のイメージを喚起している。一行目と最終行だけなら役割語としての特徴は「わたくし」以外にはほぼみられないが、「ございます」多用から来る滑稽さも同時に窺える。ブ

ログが動物に語らせている点では例(4), (5)と同様であるが, スネオの母のキャラクターから, ブログの読み手におかしさも味わってもらいたい, という意図もあるのではないかと推測される。

### VI. 3. <老人語>と<軍隊語>

次の例では, シニア男性によるブログで, ブロッガーと友人が, 中国・日本間で紛争のある尖閣諸島を守るためのボランティアに参加すると約束したが, 友人がとりやめ, 自分も自信を失いつつある, という状況で, このブロッガーは天国の神との想像上の会話を描いている。

(7) 歳を取ると妙な夢ばかり・・・天国に近付いているのかも知れぬ。

「おいこらっ貴様よほよほしとるが年はなんぼじゃ？」

「はっはい, ナナジュウニでありますっ」

例(7)には, <老人語>(金水 2011: 11)と<軍隊語>(衣畑・楊 2007)の2種類がみられる。<老人語>では, 「ない」の代わりに「ぬ」, 「ている」の代わりに「とる」, 「だ」に代わり「じゃ」が使われている。夢の中の会話の中で「貴様」と「であります」を使用することは, 軍隊で上官(神)が下級兵士に話しかけている様を読者に思い出させる。衣畑・楊(2007: 186-190)は, <軍隊語>では, 下位者は自身のことを語るのに「自分」を使用し, 文を「であります」で終わらせるのが典型的であると述べている。「自分」は(7)には出現しないが, 2人称の「貴様」が使われて含まれており, この例は, 優位な位置にいる上級軍人, つまり神と下級兵士, つまりブロッガーとの会話を<軍隊語>で示している。

ブロッガーと登場人物がどのような役割を果たしているか, に関しては, ブロッガーは読者に対してこの会話の作成者・提示者であり, 役割語を用いて2人のキャラクターを操作する。2人のキャラクターのうちの1人は, 老齢のために紛争下にある島を守るのが難しいと感じる老人であり, もう1人は権威のある上司として描かれている神である。ブロッガーが<老人語>と<軍隊語>を使用することで, 役割語を使用しない場合よりも, 読者にとって魅力的で興味深いブログとなっていると言える。さらに, (7)の例では, 上司の命令に従うかのように, 神に応答しているキャラクターの声が聞こえ, 喜劇的な効果ももたらしている。「ナナジュウニでありますっ」を述語なしの「ナナジュウニ」とすることや, 「でありますっ」の代わりに, 「だ」や丁寧体の「です」を使用することは, 上下関係を失わせることになる。<軍隊語>の機能により, ブロッガーは会話を作成し, 2人のキャラクターを鮮やか, 読者を楽しませる方法で提示できる。

ブロッガーによる登場人物の提示だけでなく, ブロッガーの年代にも注意が必要である。これは, 「よほよほ」と「歳をとる」という表現が, 高齢による「身体の衰え」(Lin et al. 2004)に由来する「マイナス年齢アイデンティティ」を強調していることを示唆している。しかし, <軍隊語>の使用は, 上で指摘したようなコミカルな関係のために, ブロッガーにとって否定的な高齢アイデンティティを肯定的に受け止める手段と考えることもできる。つまり, ブロッガーは状況を嘆かず, かえって戯画的にユーモラスな様式で高齢というものを受け止めている。このように, 役割語の使用がブロッガーの否定的・

肯定的な年齢アイデンティティの管理と関わることが分かる。高齢化がますます重要な社会全体の問題になっている時、高齢者がどのように高齢を経験し、老人であることや、老化することに、どのように対処するかをブログから観察すると、以前はあまり注目されなかった高齢者の行動や生活の一端が明らかになると思われる。

#### VI. 4. <男ことば>

次の例は若手男性のグループからである。

- (8) 仮予約? そんな甘っちょろいもんじゃねえ!!  
おいおい。これはグレートにヘビーな状況だぜ。  
ヘビーすぎるぞ!!

このブロガーは荒木飛呂彦作のコミック『ジョジョの奇妙な冒険』の大ファンで、雑誌の特集号を入手したいと思っている。ところが発売開始日ではなく予約受付開始日が分かり、仮予約のために、列に並んで待たなければならないかも知れない、という彼にとって深刻な状況がある。ここでは、「じゃない」に代わって、「じゃねえ」、終助詞「ぜ」、「ぞ」が用いられている。これらは典型的な若い<男ことば>である。しかし、この同じブロガーは(9)のようにも書いている。

- (9) 早急にスーツを買い換える必要がある。僕はそう決心しました。  
～～1年後～～  
俺「はっ! そういえばスーツが一着破れていたぜ!! 早急に買い換えねば。」  
1年も忘れていました。

(9)で興味深いのは、このブロガーは、巨視的、微視的コミュニケーションを区別して状況を述べている点である。「私」よりフォーマリティに欠けるが謙虚な響きの「僕」と丁寧な「ました」を使用して、この書き手は自分の決心を読者にやや改まって伝えている。これは書き手と読者との間の巨視的コミュニケーションである。ところが、後半「俺」と「ぜ」で書き手、としてというより、ブログ内の一人物として、インフォーマルに思い出した内容を吐露している。独り言といえるかも知れないが、自分との会話でこれは微視的コミュニケーションが記されており、最後の行でまた、このブロガーが読者に説明するナレーターの役割を果たしている。同じ<男ことば>でも、「僕」と「俺」とでは、思い浮かべる人物像が異なり、これは同一人物でも、場面に応じて使用言語を変えるのに似て、ブログにおける役割が、登場人物か、ナレーターかを、異なる語彙の<男ことば>で区別して描くことに成功している。

## VI. 5. <お嬢様ことば>

最後の例は、若年女性のブログからで、スウェーデンに婚約者がいて、結婚前に荷物を発送するときの状況を描いている。

(10) 無事届きますように！

それにしても、こんなにたくさん送ったらErikびっくりしちゃうかしら。ま、バラバラに届くはずだから、大丈夫よね！

太字、下線の「かしら」及び「よね」が典型的に女性、どちらかという、育ちの良い若い女性を思い起こさせる。自問自答であるが、この例では、書き手とブログ内登場人物が限りなく近く、ブログ内で折り、自分に問いかけ、自分で答えも出している登場人物がいる。巨視的コミュニケーションでは、ブログ内人物を通して、読者へメッセージを伝えている。

## VII. 考 察

これまでの観察に基づいて、このセクションでは以下を考察する。(1)読者によるブロガーと登場人物の解釈に役割語がどのように関係しているか、(2)ブロガーがブログ内外の人物を役割語を用いて描写、提示する際、文字種の選択がどのように影響するのか、(3)多様なブログの書き手、特にシニア年代の書き手によるブログ研究にはどのような社会文化的意義がありうるのか。

### 1. 役割語と、読者によるブロガーと登場人物の解釈との関係

ブログは、人々が実際に何を言い、何をしているのかに関する記録ではなく、むしろ、書き手が言ったり書いたりするであろう事柄を反映したテキストといえる。洗練された文章作成能力が必ずしも十分でない場合でも、容易に人物のステレオタイプ化を可能にする役割語の助けを借りて、ブロガーは効果的かつ効率的に読者に自分自身やブログ内登場人物を提示することができることから、読者は共通理解のある人物像を思い描くことが可能となる。この「人物」というとき、ブログ内の登場人物は当然のこと、ブログを提示するブロガー自身の人物についても言えることも銘記したい。というのは、分析例のうち、たとえば<老人語>と<軍隊語>を駆使して書かれたブログから、この書き手は「面白い人」あるいは「面白いことを書く人」との解釈が読み手に生まれることもありうる。この意味では、この書き手は読み手を楽しませる文才のある書き手ともいえることにもなる。ブログの書き手はプロの作家ではない、との（必ずしも正しくない）先入観を持つ読者もいそうであるが、ブログと小説の違いとしては、書き手の提示方法のほか、読み手が「ブログ」として、あるいは「小説」として受け止めるか、にも依存する部分もあると考えられる。

役割語は読み手にパフォーマンスのショーを見せるツール、ともいえるだろう。描かれている登場人物は世間で流通している特徴ある人物の「言葉」と「声」を得て自分の声として作品内で読者に提供される。「他人の声」を「自分の声」として示すことは、Bakhtin (1981) の言うスタイライゼイショ

ンにほかならず、役割語をこの立場から検討する事ができる (Nishimura 2017)。

## 2. 役割語と文字種との関わり

他言語には見られない日本語の書記体系におけるマルチスクリプトシステムは、書き手にある程度の自由度を与える。犬が自分の子どもとして提示されているブログでは、「僕」という漢字がブロガーによって使われている。この漢字の選択は、主人公を読者に紹介するというフォーマルな状況から来ていると思われる。この場合、ひらがなの「ぼく」も、ひらがなは「こども」を連想させるので、利用しうる選択肢といえる。しかし、＜軍隊語＞の例では、二人称代名詞である「貴様」をひらがなに置き換えることは不可能であろう。読者は「きさま」において、ひらがなを使用する理由が見いだせない。万一ひらがなが使われたとすると、読者はひらがなから漢字への変換をスキップ、あるいは書き手の漢字の知識が問われるかもしれない。カタカナの使用は何らかの特別な強調目的<sup>(4)</sup>があるのであれば不可能ではないが、あまり起こりそうではない。

社会言語学では、話し言葉に焦点が当てられており、このことは書き言葉を脇に追いやっていると Coulmas (2013: 1) は述べている。この観点からは、文字種の選択は、少なくとも日本語では重要である。インターネット時代においては、書くことはこれまで以上に社会生活上はるかに大きな役割を果たすようになっており、より系統だって注意を払うべきである。役割語研究でこれまでは、それほど扱われたり検討されたりしてこなかった文字種選択だが、ステレオタイプの連想を伝える機能があるため、役割語の一面に取り入れられると、役割語研究の幅を広げることにもなる。語彙と文字種に選択肢がある場合、語彙と並んで文字種は書き手が提示し、読者がブログの登場人物や作家を解釈するための言語資源なのである。

## 3. ブログの研究の社会・文化的意義

＜幼児語＞の現象をみたが、この使用は、「かわいい」ということに対する社会文化的イデオロギーの反映とみることができる。また、高齢アイデンティティに関する夢の中の会話で、「体力の衰え」というブロガーの否定的高齢アイデンティティが＜軍隊語＞により肯定的でユーモラスな解釈を可能にする。Coupland (2004: 84-85) は、“the negotiation of one’s identity as an older person subsumes the self-appraisal of one’s own worth as the ‘time-traveling’ person ... identity in ageing ultimately connects to morale and well-being.” (高齢者としてのアイデンティティを切り抜けてゆくには「時を旅してきた」ものとしての自分自身の価値の自己評価を含めることになり、... 高齢者におけるアイデンティティは、最終的には高齢者の意気と幸福につながるものである。【著者訳】) と述べている。シニアブログの分析は、そのような説明を行う試みの一歩である。役割語の有無にかかわらず、シニアブログのテキストには、高齢者の声が表示される。その声を聴き高齢者に関する問題を把握することは、高齢化の進む今日、社会言語学のとるべき重要な方向である。

## VIII. おわりに

この研究は、これまで行われてこなかった、日本の高齢世代に焦点を当てたブログを分析することで、高齢世代の言語行動の一端を明らかにした。特に日本語には豊富な一人称代名詞があり、文字種にも自由度があるため、ブロガーは自分自身や登場人物を語るのに最適な形式を用いる選択肢がある。調査の結果、一人称代名詞、文末形、文字種の選択のうち一人称代名詞に関してシニアブロガーは、ジュニアユーザーよりも多くの種類の一人称代名詞を使用していることが判明した。性差に関しては、ブロガーの一人称代名詞の使用は、一般的に日本のジェンダーステレオタイプを反映したものであることが分かった。さらに筆者は役割語研究に書き言葉における文字種の選択も含めるよう拡張することを提案している。

高齢世代のブログにおける役割語の使用例を若年世代の役割語使用と比較して、役割語がソーシャルメディア実践において、多様なブロガーのアイデンティティ構築と解釈を可能にする言語資源となっていることが判明した。今回はコーパスによる俯瞰的分析には文末表現は含めなかったが、今後は詳細なブログテキスト分析とコーパス分析をあわせて行うことで、高齢世代の言語行動を若年世代との対比でより深く解明することが可能となるであろう。

### 謝辞

本研究は、2012-2015、文部科学省科学研究費基盤研究(C)「拡大する日本語デジタルコミュニケーションに関する社会言語学研究—高齢化を視野に」(課題番号 24520479) による補助を得た。また査読者による建設的コメントに謝辞を述べる。

### 注

- (1) 金水敏(編)(2014: viii-xiii) にならい、本稿でも役割語には<男ことば>のように<>を用いる。その下位区分は重複を避けると概略以下である。
  - 「性差」: <男ことば><書生語><少年語><女ことば><お嬢様ことば><奥様ことば>
  - 「年齢・世代」: <老人語><おばあさん語><幼児語><お姫様ことば>
  - 「職業・階層」: <博士語><上司語><やくざことば><ヤンキー語><軍隊語><遊女ことば>
  - 「地域」: <田舎ことば><大阪弁・関西弁><京ことば><片言><ピジン><アルヨことば>など
  - 「時代」: <武士ことば><忍者ことば><公家ことば><町人ことば>
  - 「人間以外」: <宇宙人語><ロボット語><動物語><神様語><幽霊ことば>
- (2) 日本ブログ村村長の回答によると、利用者の年代別構成割合は、2009年5月時点で50歳代以上が12%程度のところ、2015年5月では34%程度に上昇している。
- (3) 柴田・山田(編)(2002: 1480) は一人称語彙として、「私(わたし)」を男女ともに用いる最も一般的な語彙として記載し、それ以外に以下の34種類挙げている。1) 私(わたくし)、2) あたし、3) あたくし、4) あたい、5) わし、6) 我が輩、7) 僕、8) 俺、9) おいら、10) あっし、11) こちとら、12) 自分、13) 手前、14) 小生、15) 其(それがし)、16) 拙者、17) おら、18) 私達(わたしたち)、19) 私達(わたくしたち)、20) 私等(わたしら)、21) 我我、22) 我等、23) 俺達、24) 私共(わたくしども)、25) 手前共、26) 自分、

- 27) 自身, 29) 自分自身, 29) 御自分, 30) 己, 31) 自己, 32) 我, 33) 我が身, 34) 自ら。  
(4) Stanlaw (2002: 549) は、カタカナは英語文章におけるイタリック体に相当する、一種の強制的機能を持つと述べている。

## 引用文献

- 伊藤克敏 (1990), 『こどものことば: 習得と創造』 勁草書房.
- 伊藤雄馬 (2016), 「タイ語の新しい人称代名詞 *pòm* の役割語的分析」 金水敏 (編) (2016), 『役割語・キャラクター言語研究国際ワークショップ2015 報告論集』 112-117 私家版 <http://skinsui.cocolog-nifty.com/sklab/2016/03/2015-42e5.html>.
- 岡崎友子・南侑里 (2011), 「役割語としての「幼児語」とその周辺」 金水敏 (編) 『役割語研究の展開』 195-212. くろしお出版.
- キーン, ドナルド (1985), 『続百代の過客: 日記にみる日本人』 上; 金関寿夫訳 朝日新聞社.
- 衣畑智秀・楊昌洙 (2007), 「役割語としての軍隊語の成立」 金水敏 (編) 『役割語研究の地平』 179-192. くろしお出版.
- 金水敏 (2003), 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎 (もっと知りたい! 日本語)』 岩波書店.
- 金水敏 (編) (2007), 『役割語研究の地平』 くろしお出版.
- 金水敏 (編) (2011), 『役割語研究の展開』 くろしお出版.
- 金水敏 (編) (2014), 『役割語小辞典』 研究社.
- 金水敏 (編) (2016), 『役割語・キャラクター言語研究国際ワークショップ2015 報告論集』 私家版 <http://skinsui.cocolog-nifty.com/sklab/2016/03/2015-42e5.html>.
- 定延利之 (2011), 「キャラクタは文法をどこまで変えるか?」 金水敏 (編) 『役割語研究の展開』 4-26 くろしお出版.
- 柴田武・山田進編 (2002), 『類語大辞典』 講談社.
- 総務省 (2009), 『ブログの実態に関する調査研究』 情報通信政策研究所 <http://www.soumu.go.jp/iicp/chousakenkyu/data/research/survey/telecom/2009/2009-02.pdf>.
- 高橋太郎 (1975), 「幼児語の形態論的な分析—動詞・形容詞・述語名詞—」 『国立国語研究所報告 55』 秀英出版.
- 内閣府 (2016), 『平成28年版高齢社会白書』 [http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/zenbun/28pdf\\_index.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/zenbun/28pdf_index.html).
- 長尾嘉英 (2010), 「デジタルシニア時代の到来? インターネットの浸透とシニア層の変化」 橋元良明編 『日本人の情報行動2010』 315-329 東京大学出版会.
- 西村由起子 (2012), 「ケータイ小説とリテラシー: 言語イデオロギーの視点から」 『東洋学園大学紀要』 20. 165-180.
- 山口治彦 (2007), 「役割語の個別性と普遍性—日英の対照を通して—」 金水敏 (編) 『役割語研究の地平』 9-25. くろしお出版.
- 山口治彦 (2011), 「役割語のエコロジー—他人キャラとコンテクストの関係」 金水敏 (編) 『役割語研究の展開』 27-47. くろしお出版.
- 四方田犬彦 (2006), 『「かわいい」論』 筑摩書房.
- Bakhtin, M. M. (1981). Discourse in the novel. In M. Holquist (Ed.), *The Dialogic imagination: Four essays*. (C. Emerson & M. Holquist, Trans. 259-422). Austin: University of Texas Press.
- Coulmas, F. (2013). *Writing and society*. Cambridge, UK: Cambridge University Press.
- Coupland, N. (2004). Age in social and sociolinguistic theory. In J. F. Nussbaum and J. Coupland, (Eds.) 69-90. *Handbook of Communication and Aging Research* (2nd ed.). Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.

- Kinsella, S. (1995) Cuties in Japan. In L.Skov & B. Moeran (Eds). *Women, media and consumption in Japan*. 220-254, Honolulu: University of Hawai'i Press.
- Lin, Mei-chen, Hummert, M. L. & Harwood, J. (2004). Representation of age identities in on-line discourse. *Journal of Aging Studies*, 18 (3), 261-274. <http://citeseerx.ist.psu.edu/viewdoc/summary?doi=10.1.1.607.9421>
- Matsumoto, Y. 2011. Beyond Stereotype of Old Age: The Discourse of Elderly Japanese Women. In *Faces of aging: The lived experiences of the elderly in Japan*. Y. Matsumoto (ed.) 194-219, Stanford, CA: Stanford University Press.
- Nishimura, Y. (2013). Variations across media in Japanese: Corpus-based study of speech, writing and CMC. Paper presented at The 5th International Conference on Corpus Linguistics. The University of Alicante, Alicante, Spain.
- Nishimura, Y. (2017). Age, Gender and Identities in Japanese Blogs: Analysis of Role Language as Stylization. In S. Leppänen, E. Westinen & S. Kytölä (Eds.), *Social Media Discourse, (Dis) identifications and Diversities* 263-286. New York: Taylor & Francis.
- Rettberg, J.W. (2014). *Blogging*. (2nd ed.). Cambridge, UK: Polity.
- Schmidt, J. (2007). Blogging practices: An analytical framework. *Journal of Computer-Mediated Communication*, 12 (4), article 13. <http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/j.1083-6101.2007.00379.x/epdf>.
- Smith, J. S., & Schmidt, D. L. (1996). Variability in written Japanese: Towards a sociolinguistics of script choice. *Visible Language* 30 (1), 47-71.
- Stanlaw, J. (2002). "Hire" or "fire"? Taking AD-vantage of innovations in the Japanese syllabary system. *Language Sciences*, 24 (5-6), 537-574.
- Teshigawara, M., & Kinsui, S. (2011). Modern Japanese 'role language' (yakuwarigo): Fictionalised orality in Japanese literature and popular culture. *Sociolinguistic Studies*, 5 (1), 37-58.
- Wikipedia (2017) Blog <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%96%E3%83%AD%E3%82%B0>.